

資金運用に関するアンケート調査結果

平成29年3月

独立行政法人 農業者年金基金

目 次

1	資金運用に関するアンケート調査結果の概要	1
2	調査結果	3
3	調査結果（主要なクロス集計）	9
4	回答者の概況	15

1 資金運用に関するアンケート調査結果の概要

(1) 調査の趣旨

農業者年金基金の新制度は、基金が資金の運用を一元的に行い、保険料等とその運用収入を年金原資として、生涯にわたり年金の支給を行う制度として設計され、平成14年1月にスタートしてから14年が経過しました。

基金では、資金運用にあたり、長期的な視点に立って、各投資対象資産のリターンとリスクの特性を踏まえた最適な資産構成割合（政策アセットミクス）を定め、その構成割合を維持するように分散投資を行っており、これにより長期的に安定的な収益を確保することに努めています。

また、この政策アセットミクスについては、実体経済の情勢変化等の諸条件の変化に照らした妥当性の検証を毎年度行っており、必要に応じて見直しを行うこととしています。

農業者年金は、加入者が積み立てた保険料等とその運用収入に応じて年金額が事後に決まる「確定拠出型」の年金制度であり、加入者の年金額は運用成績により変動します。このため、基金の年金資金の運用にあたっては、加入者の意向を尊重して行うことが重要と考えております。

この度、新制度発足からまもなく15年を迎え、また、前回の資金運用に関する加入者アンケートから約10年が経過したことを踏まえ、現在の加入者の資金運用についてのご意見、ご意向を把握するアンケート調査を実施しました。

(2) 調査内容

調査は、前回調査（平成19年実施）に準じた方式で行っており、加入者のうち、被保険者の方の中から無作為に抽出した1万名に、アンケート調査票（及び参考資料）を郵送し、同封のハガキにより回答してもらう方式により実施しました。（平成28年11月1日に調査票送付、回答期限を11月末日として実施。）

内容については、下記6項目の事項に関する設問に対し、提示する選択肢の中から一つを選んで回答してもらう方式により実施しました。また、回答者の参考となるよう、設問内容を補足する参考資料も併せて送付しました。

- 問1 これまでの運用結果に対する満足度に関する設問
- 問2 リスクとリターンの関係についての認識状況に関する設問
- 問3 今後の農業者年金の運用に関する設問
(リスクとリターンのどちらをより重視するか)
- 問4 想定運用期間（タイムホライズン）についての考え方に関する設問
- 問5 グローバル株式導入についての考え方に関する設問
- 問6 参考資料の理解度に関する設問

(3) 調査結果概要（文中の（）書は、前回調査の結果。）

調査票を送付した1万名のうち、2,009名の方にご回答をいただくことができました。
(回収率 20.1% (前回 13.0%))

調査結果の概要は以下の通りです。

① これまでの運用結果については、「大変満足している」及び「概ね満足している」をあわせると76.7%と、これまでの運用結果に満足している方が8割弱を占めた一方、「やや不満である」及び「非常に不満である」をあわせると22.8%と、運用結果に満足していない方も2割強いらっしゃいました。（前回調査では満足とする回答が91.3%。ただし、今回とは選択肢の数が異なる。）

② リスクとリターンについては、「知っていた」及び「多少聞いたことがある」をあわせると86.4%（84.9%）で、リスクとリターンがトレードオフの関係であることについて、概ね理解されているという結果となりました。

③ 今後の農業者年金の運用については、「今と同程度のリターンとリスクを目指す運用をしてほしい」が48.8%（51.5%）、「リスクをさらに低くする運用をしてほしい」が45.2%（42.4%）で、あわせると94.0%（93.9%）と高い比率を占めました。一方、「さらに高いリターンを目指してほしい」は5.3%（3.9%）にとどまり、多くの方が、安全な運用を期待していることが伺える結果となりました。

④ 想定運用期間（タイムホライズン）については、「5年程度で平均してプラス運用になってほしい」が47.7%、「年金受給までにはプラス運用になってほしい」が30.4%と、8割弱の方が運用期間を中長期的に想定されているという結果でした。一方、「一年でもマイナス運用は許容できない」も21.3%と、運用期間を短期で想定されている方も一定数いらっしゃいました。

⑤ グローバル株式導入については、「どちらとも言えない（わからない）」が49.7%と約半数を占めました。また、「大いに賛成」及び「やや賛成」があわせて15.7%にとどまったのに対し、「やや反対」及び「絶対に反対」があわせて34.1%と、否定的な回答が肯定的な回答の2倍以上となりました。

⑥ 参考資料の理解度については、「ほぼ理解できた」及び「まあまあ（何とか）理解できた」をあわせると78.1%と、概ね理解をいただけたという結果となりました。また、「参考資料は見えていない」という回答は3.5%にとどまっており、大多数の方に参考資料をご覧いただくことができました。

（４）調査結果を受けて

以上の結果から、これまでの運用結果については、多くの（8割弱の）加入者の方々に概ね満足をいただいていること、また、今後の運用については、加入者の多くがより安全性を重視した運用を望んでいることが分かりました。この調査結果については、今後の資金運用業務や政策アセットミクス検証の際の参考とさせていただきます。

基金では、農業者年金が、確定拠出型の制度であることから、透明性を高めるために、加入者に毎年度付利通知を送付するとともに、基金のホームページにおいて、四半期毎の運用状況を掲載するなど、資金運用に関する情報提供を行っております。今後も引き続き、加入者の方々に、付利通知などの機会を通じて情報提供を行い、農業者年金の資産運用について理解を求めていく取組みを進め、信頼される運用に努めて参ります。

2 調査結果

問1 農業者年金のこれまでの運用結果は、直近10年間の平均利回りで+2.43%となりました。

このような運用結果について、どのようにお考えですか。

注) 加入期間が10年未満の方も、ご自身の加入期間の運用結果についてではなく、10年間の運用結果についてのお考えをお答えください。

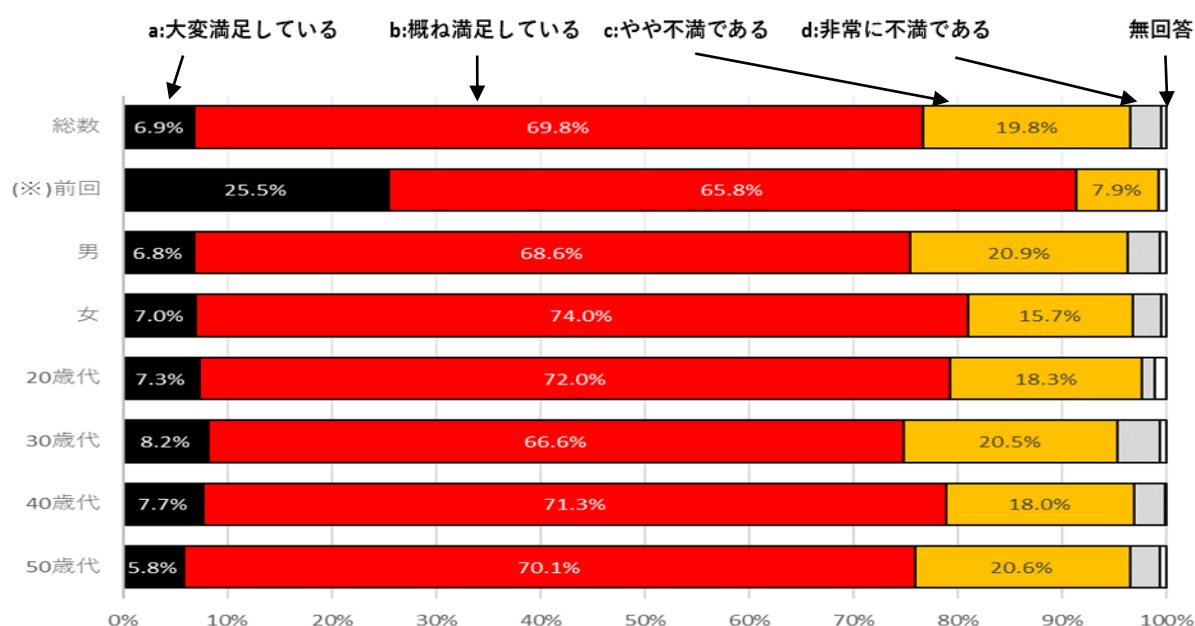
- a : 大変満足している
- b : 概ね満足している
- c : やや不満である
- d : 非常に不満である

農業者年金のこれまでの運用結果については、「大変満足している」とする回答と「概ね満足している」とする回答をあわせると76.7%となっており、加入者の8割弱が、これまでの運用結果に満足しているという結果でした。(前回の平成19年度調査では91.3%であるものの、今回とは選択肢の数が異なる。)

一方で、「やや不満である」とする回答と「非常に不満である」とする回答があわせて22.8%となっており、運用結果に満足していない加入者も2割強いらっしゃいました。

(単位：人、%)

		a		b		c		d		無回答		合計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
総数		138	6.9	1,402	69.8	397	19.8	61	3.0	11	0.5	2,009	100.0
(前回の結果)		(332)	(25.4)	(857)	(65.8)	(103)	(7.9)	—	—	(11)	(0.9)	(1,303)	(100.0)
性別	男	108	6.8	1,086	68.6	330	20.9	49	3.1	9	0.6	1,582	100.0
	女	30	7.0	316	74.0	67	15.7	12	2.8	2	0.5	427	100.0
年齢階層別	20歳代	6	7.3	59	72.0	15	18.3	1	1.2	1	1.2	82	100.0
	30歳代	33	8.2	269	66.6	83	20.5	16	4.0	3	0.7	404	100.0
	40歳代	43	7.7	400	71.3	101	18.0	16	2.9	1	0.2	561	100.0
	50歳代	56	5.8	674	70.1	198	20.6	28	2.9	6	0.6	962	100.0



(※)前回選択肢は、グラフ左より、a:満足している b:概ね満足している c:不十分であるの三択及び無回答である。

問2 預貯金など異なり、株式や債券は、金融情勢によって日々価格が変動します。一般的には、高い収入（リターン）が期待できる資産は、その分価格の変動幅（リスク）も大きく、大きな損失が発生する可能性もあります（ハイリスク・ハイリターンと言われます）。

これに対して、価格の変動幅（リスク）の小さい資産は、大きな損失が発生する可能性は低くなりますが、期待できる収益（リターン）も限られます（ローリスク・ローリターンと言われます）。

このことをご存じでしたか。

a：知っていた

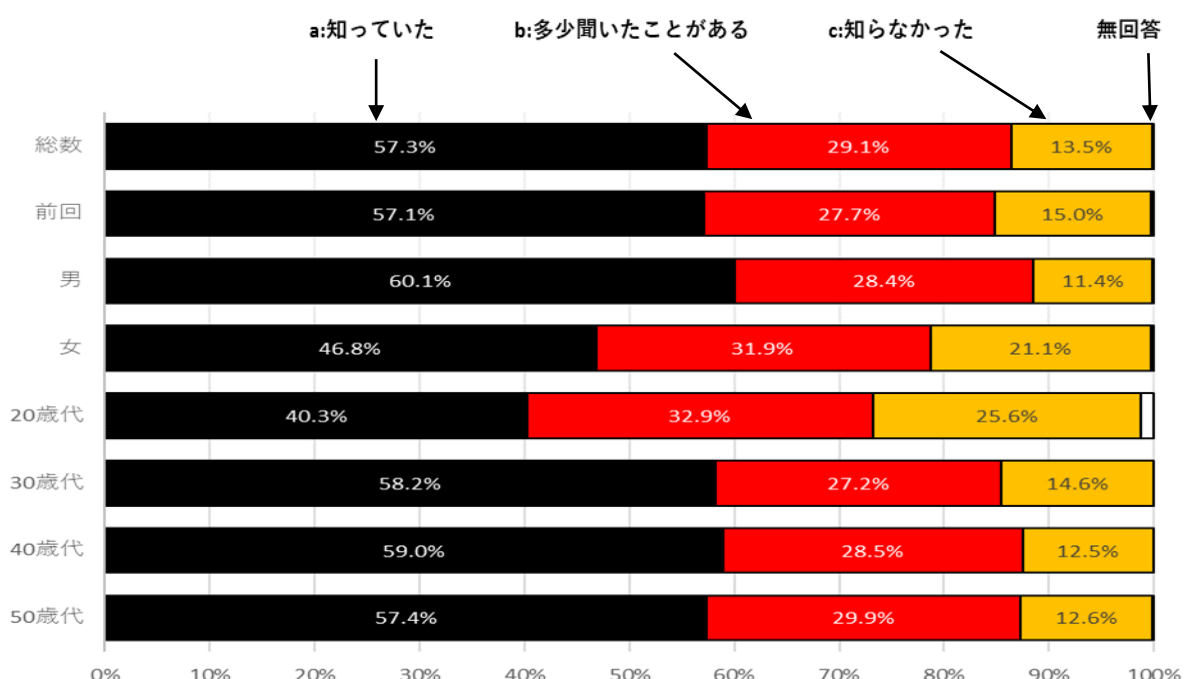
b：多少聞いたことがある

c：知らなかった

リスクとリターンがトレードオフ（＝同時に達成されない状況）の関係にあることについては、「知っていた」とする回答と「多少聞いたことがある」とする回答をあわせると 86.4%(前回 84.9%) となっており、前回と同様に、概ね理解がなされているという結果でした。

(単位：人、%)

		a		b		c		無回答		合計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
総 数		1,151	57.3	585	29.1	271	13.5	2	0.1	2,009	100.0
(前回の結果)		(745)	(57.2)	(361)	(27.7)	(196)	(15.0)	(1)	(0.1)	(1,303)	(100.0)
性別	男	951	60.1	449	28.4	181	11.4	1	0.1	1,582	100.0
	女	200	46.8	136	31.9	90	21.1	1	0.2	427	100.0
年齢階層別	20歳代	33	40.2	27	32.9	21	25.6	1	1.2	82	100.0
	30歳代	235	58.2	110	27.2	59	14.6	0	0.0	404	100.0
	40歳代	331	59.0	160	28.5	70	12.5	0	0.0	561	100.0
	50歳代	552	57.4	288	29.9	121	12.6	1	0.1	962	100.0



問3 農業者年金基金では、運用にあたって、国内債券、国内株式、外国債券、外国株式の4資産に分散投資しています。

これら4資産は、それぞれ期待できるリターンとそれに伴うリスクが異なります。過去の実績によれば、リスク・リターンの大きさは、預貯金など<債券<株式となります。

このように、運用する資産によって期待されるリターンとそれに伴うリスクが異なることを踏まえ、今後の農業者年金の運用について、どのようにお考えですか。

a：リスクが高くなっても、さらに高いリターンを目指すような運用をしてほしい

b：高いリターンが期待できなくても、リスクをさらに低くするような運用をしてほしい

c：今と同程度のリターンとリスクを目指す運用をしてほしい

今後の運用に対する考え方では、「今と同程度のリターンとリスクを目指す運用をしてほしい」とする回答が48.8%、「高いリターンが期待できなくても、リスクをさらに低くするような運用をしてほしい」とする回答が45.3%と、この2つの選択肢で94.0%（前回93.9%）と高い比率を占めました。一方、「リスクが高くなっても、さらに高いリターンを目指すような運用をしてほしい」とする回答は全体の5.3%（前回3.9%）にとどまりました。

このように、前回と同様に、9割以上の方が、現行程度ないしそれよりも安全な運用を期待されているという結果でした。

（単位：人、%）

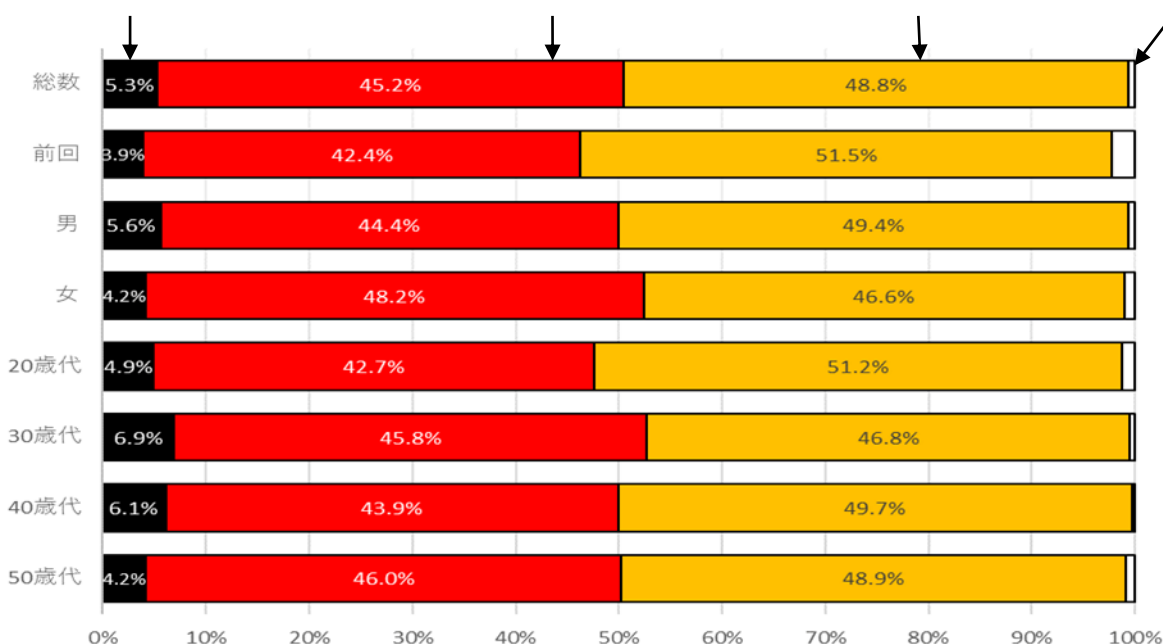
		a		b		c		無回答		合計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
総数		106	5.3	909	45.2	980	48.8	14	0.7	2,009	100.0
(前回の結果)		(51)	(3.9)	(552)	(42.4)	(671)	(51.5)	(29)	(2.2)	(1,303)	(100.0)
性別	男	88	5.6	703	44.4	781	49.4	10	0.6	1,582	100.0
	女	18	4.2	206	48.2	199	46.6	4	0.9	427	100.0
年齢階層別	20歳代	4	4.9	35	42.7	42	51.2	1	1.2	82	100.0
	30歳代	28	6.9	185	45.8	189	46.8	2	0.5	404	100.0
	40歳代	34	6.1	246	43.9	279	49.7	2	0.4	561	100.0
	50歳代	40	4.2	443	46.0	470	48.9	9	0.9	962	100.0

a:リスクが高くなっても、さらに高いリターンを目指すような運用をしてほしい

b:高いリターンが期待できなくても、リスクをさらに低くするような運用をしてほしい

c:今と同程度のリターンとリスクを目指す運用をしてほしい

無回答



問4 年金の運用では、運用成績がプラスになる年やマイナスになる年がありますが、長期的には安定的な収益が期待できると考えられています。

農業者年金基金の運用成績について、どのようにお考えですか。

- a：たとえ一年間であってもマイナス運用となることは好ましくない。(これによって利回りが低くなってもやむを得ない。)
- b：マイナス運用となる年があってもいいが、5年間程度で平均した時にはプラス運用になってほしい。
- c：マイナス運用となる年があってもいいが、年金を受給するまでには平均してプラス運用になってほしい。

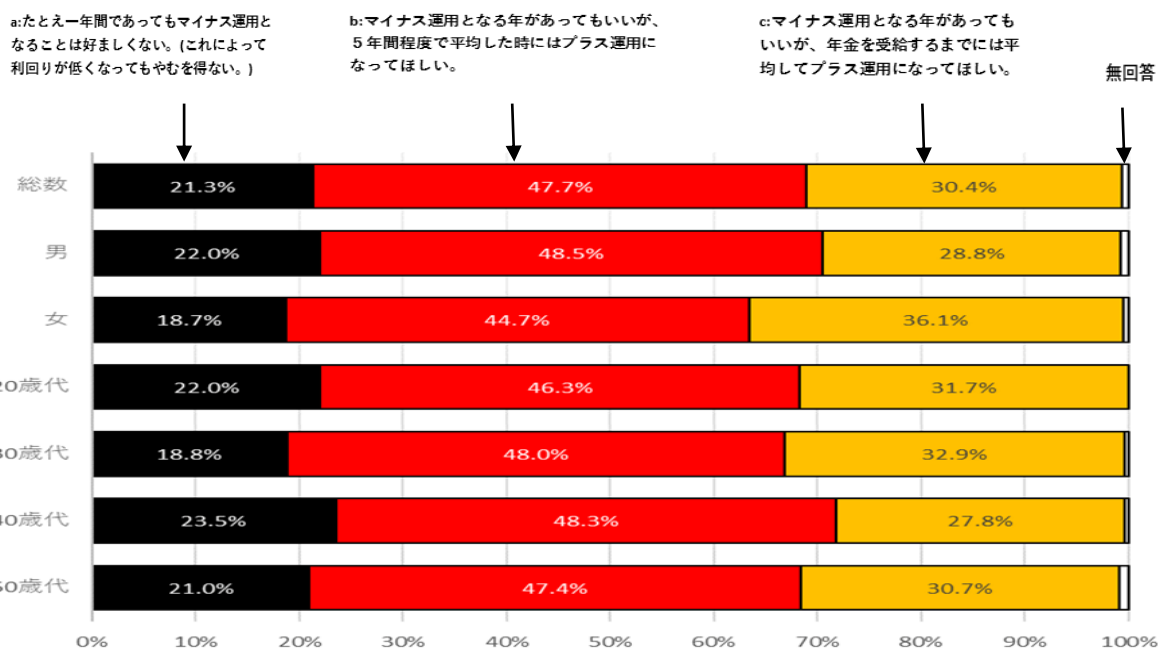
年金資産の運用成績と想定運用期間(＝タイムホライズン)に対する考え方では、「マイナス運用となる年があってもいいが、5年間程度で平均した時にはプラス運用になってほしい」とする回答が 47.7%で最も多く、次に「マイナス運用となる年があってもいいが、年金を受給するまでには平均してプラス運用になってほしい」とする回答が 30.4%となっており、加入者の8割弱が、運用期間を中長期的に想定されているという結果でした。

一方で、「たとえ一年間であってもマイナス運用となることは好ましくない。(これによって利回りが低くなってもやむを得ない。)」とする回答が 21.3%と、運用期間を短期で想定される方も2割強いらっしゃいました。

(単位：人、%)

		a		b		c		無回答		合計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
総 数		428	21.3	959	47.7	610	30.4	12	0.6	2,009	100.0
性別	男	348	22.0	768	48.5	456	28.8	10	0.6	1,582	100.0
	女	80	18.7	191	44.7	154	36.1	2	0.5	427	100.0
年齢階層別	20歳代	18	22.0	38	46.3	26	31.7	0	0.0	82	100.0
	30歳代	76	18.8	194	48.0	133	32.9	1	0.2	404	100.0
	40歳代	132	23.5	271	48.3	156	27.8	2	0.4	561	100.0
	50歳代	202	21.0	456	47.4	295	30.7	9	0.9	962	100.0

(※) 今回新規の設問であり、前回データは無し。



問5 農業者年金基金では株式の運用にあたって、「国内株式」「外国株式」と資産配分を設けており、それぞれの保有比率を1：1としています。

一方で、日本経済は世界経済と一体化しているという考えのもと、「国内株式」「外国株式」という区別をなくし、世界の株式を一括して運用対象とする「グローバル株式」という考え方もあります。

世界の株式総額に占める日本株式の割合は10%程度であるため、この「グローバル株式」を基金が導入した場合、国内株式と外国株式の保有比率は1：9程度になります。

農業者年金基金が「グローバル株式」を導入することについて、どのようにお考えですか。

a：大いに賛成 b：やや賛成 c：どちらとも言えない（わからない）
d：やや反対 e：絶対に反対

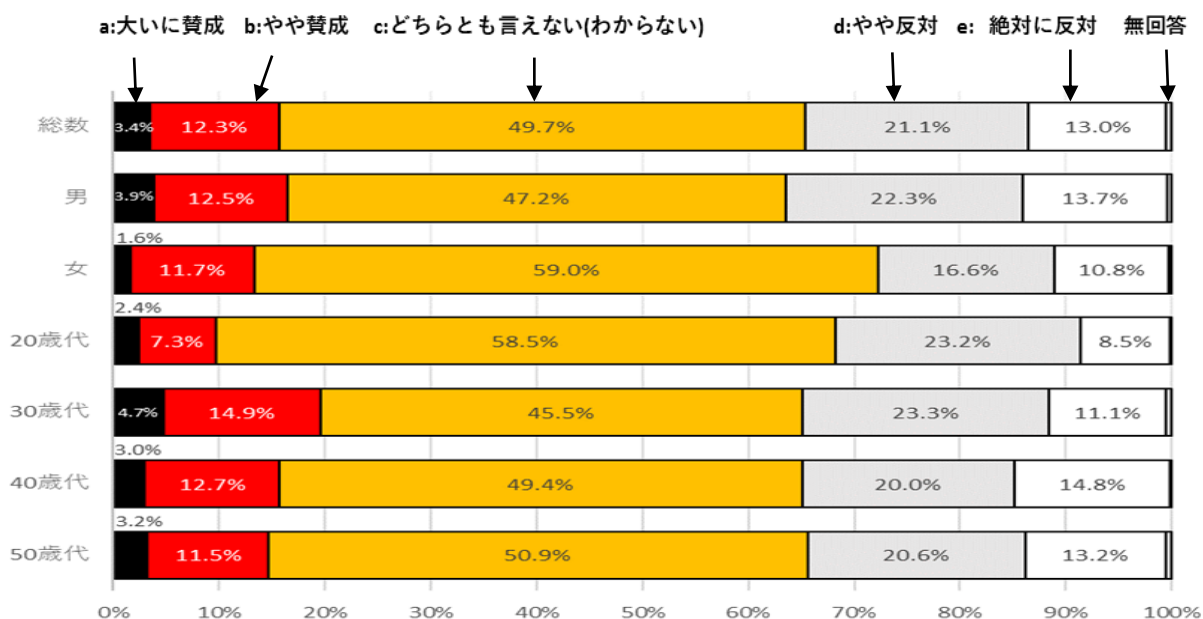
グローバル株式の導入については、「どちらとも言えない（わからない）」とする回答が49.7%と全体の約半数を占めました。

また、「大いに賛成」及び「やや賛成」の肯定的な回答が15.7%にとどまったのに対し、「やや反対」及び「絶対に反対」の否定的な回答が34.1%と、肯定的な回答の2倍以上という結果になりました。

(単位：人、%)

		a		b		c		d		e		無回答		合計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
総 数		69	3.4	248	12.3	999	49.7	423	21.1	262	13.0	8	0.4	2,009	100.0
性 別	男	62	3.9	198	12.5	747	47.2	352	22.3	216	13.7	7	0.4	1,582	100.0
	女	7	1.6	50	11.7	252	59.0	71	16.6	46	10.8	1	0.2	427	100.0
年 齢 階 層 別	20歳代	2	2.4	6	7.3	48	58.5	19	23.2	7	8.5	0	0.0	82	100.0
	30歳代	19	4.7	60	14.9	184	45.5	94	23.3	45	11.1	2	0.5	404	100.0
	40歳代	17	3.0	71	12.7	277	49.4	112	20.0	83	14.8	1	0.2	561	100.0
	50歳代	31	3.2	111	11.5	490	50.9	198	20.6	127	13.2	5	0.5	962	100.0

(※) 今回新規の設問であり、前回データは無し。



問6 参考資料をご覧になった方は、以下のうち最も近いものを選んでください。

- a：ほぼ理解出来た b：まあまあ（何とか）理解できた
c：あまり理解できなかった d：ほとんど理解できなかった
e：参考資料は見えていない

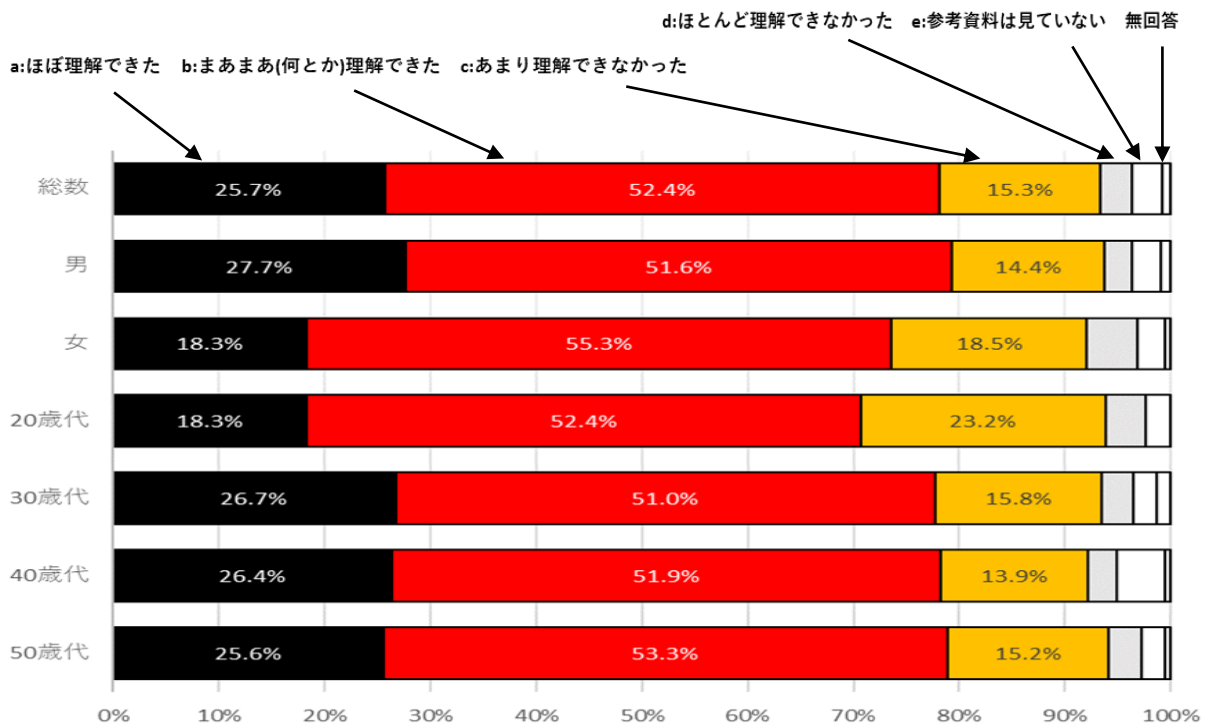
参考資料の理解度については、「ほぼ理解できた」とする回答と「まあまあ（何とか）理解できた」とする回答をあわせると 78.1%となっており、概ね理解をいただけたという結果でした。

また、「参考資料は見えていない」という回答は 3.5%にとどまっており、大多数の方に参考資料をご覧いただいたことが分かりました。

(単位：人、%)

		a		b		c		d		e		無回答		合計	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
総数		517	25.7	1,053	52.4	307	15.3	61	3.0	56	2.8	15	0.7	2,009	100.0
性別	男	439	27.7	817	51.6	228	14.4	41	2.6	45	2.8	12	0.8	1,582	100.0
	女	78	18.3	236	55.3	79	18.5	20	4.7	11	2.6	3	0.7	427	100.0
年齢階層別	20歳代	15	18.3	43	52.4	19	23.2	3	3.7	2	2.4	0	0.0	82	100.0
	30歳代	108	26.7	206	51.0	64	15.8	12	3.0	9	2.2	5	1.2	404	100.0
	40歳代	148	26.4	291	51.9	78	13.9	15	2.7	25	4.5	4	0.7	561	100.0
	50歳代	246	25.6	513	53.3	146	15.2	31	3.2	20	2.1	6	0.6	962	100.0

(※) 今回新規の設問であり、前回データは無し。



3 調査結果（主要なクロス集計）

問1×問3

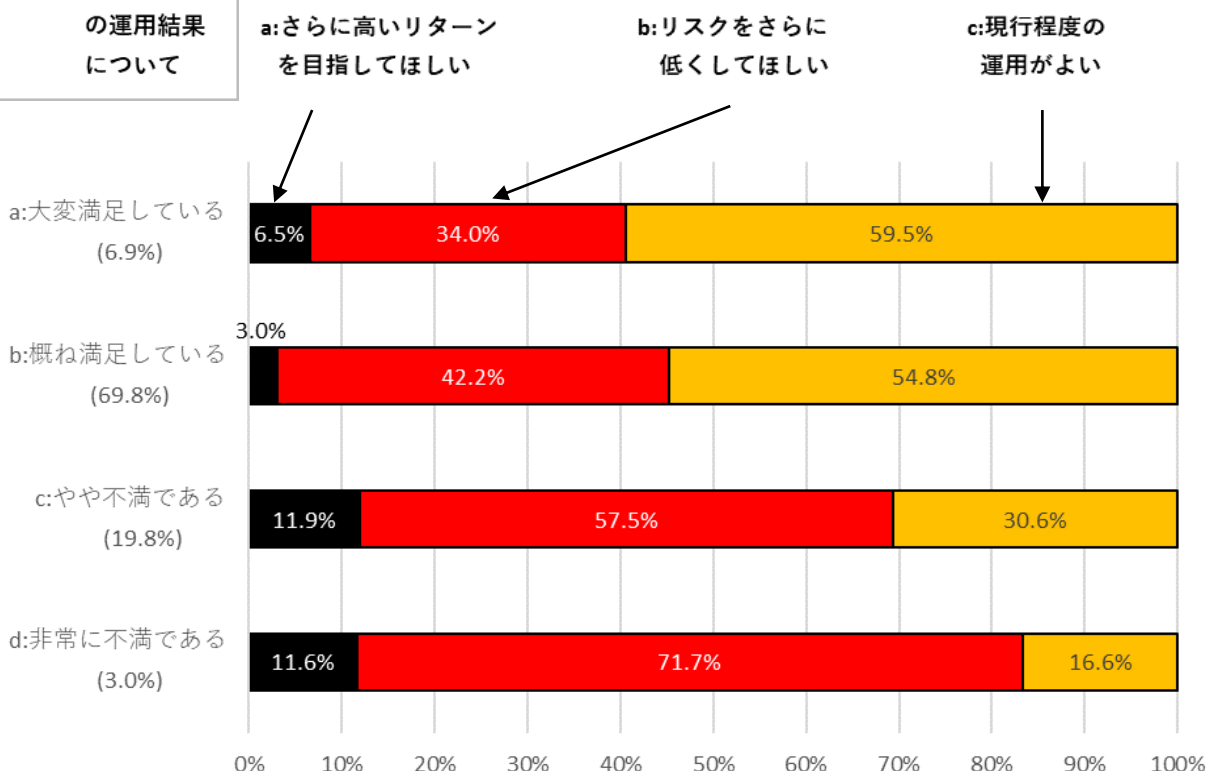
『農業者年金の運用結果』に関する設問（問1）の各選択肢に回答された方が、
『今後の農業者年金の運用』に関する設問（問3）について、どのように回答されたか。

『農業者年金の運用結果』に関する設問に満足度の高い回答をされた方々（「大変満足している」「概ね満足している」を選択された方々）は、『今後の農業者年金の運用』に関する設問では、「現行程度の運用がよい」と回答された割合が半数以上と高く、運用結果に満足している加入者は、現状維持を望む傾向が伺えました。

また、『農業者年金の運用結果』に関する設問で、満足度の低い（不満がある）回答をされた方々（「やや不満である」「非常に不満である」を選択された方々）は、『今後の農業者年金の運用』に関する設問では、「リスクをさらに低くするような運用をしてほしい」と回答された割合が半数以上と高い結果となりました。次に割合が高い回答は、「現行程度の運用がよい」であり、「さらに高いリターンを目指すような運用をしてほしい」と回答をされた方々の割合は、12%程度にとどまりました。

問3：今後の農業者年金の運用について

問1：農業者年金の運用結果について



(※)問1及び問3のいずれかが無回答であった回答20件については、全体の回答2,009件に対する割合が小さい(1.0%)ことから、上記データからは除外している。

問1×問4

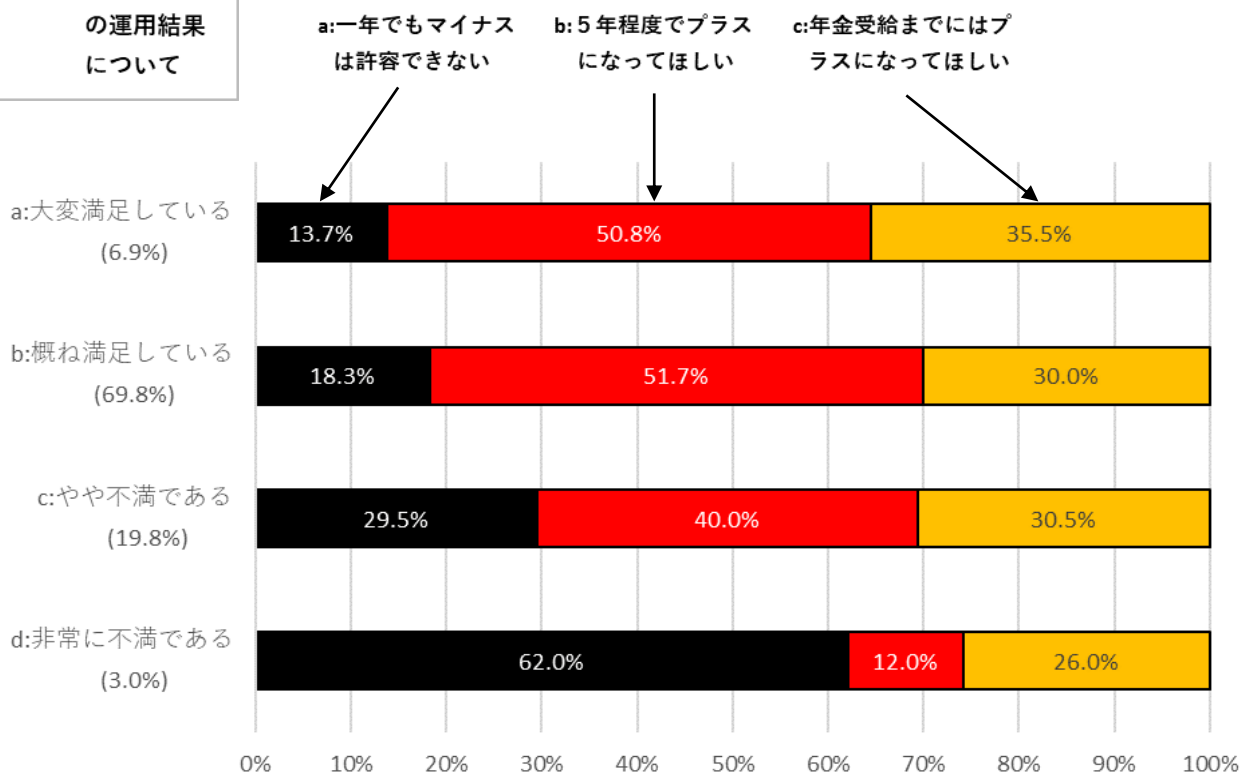
『農業者年金の運用結果』に関する設問（問1）の各選択肢に回答された方が、『年金資産の想定運用期間（＝タイムホライズン）』に関する設問（問4）について、どのように回答されたか。

『農業者年金の運用結果』に関する設問に満足度の高い回答をされた方々ほど、『年金資産の想定運用期間』に関する設問では、「5年程度でプラスになってほしい」または「年金受給までにはプラスになってほしい」と回答された割合が高くなり、運用結果に満足している加入者ほど、運用期間を中長期的に想定されている傾向が伺えました。

また、『農業者年金の運用結果』に関する設問で満足度の低い（不満がある）回答をされた方々ほど、『年金資産の想定運用期間』に関する設問では、「一年でもマイナスは許容できない」と回答された割合が高くなり、運用結果に不満がある加入者ほど、運用期間を短期で想定されている傾向が伺えました。

問4：年金資産の想定運用期間(=タイムホライズン)について

問1：農業者年金の運用結果について



(※)問1及び問4のいずれかが無回答であった回答21件については、全体の回答2,009件に対する割合が小さい(1.0%)ことから、上記データからは除外している。

問2×問1

『リスクとリターンの関係』に関する設問（問2）の各選択肢に回答された方が、
『農業者年金の運用結果』に関する設問（問1）について、どのように回答されたか。

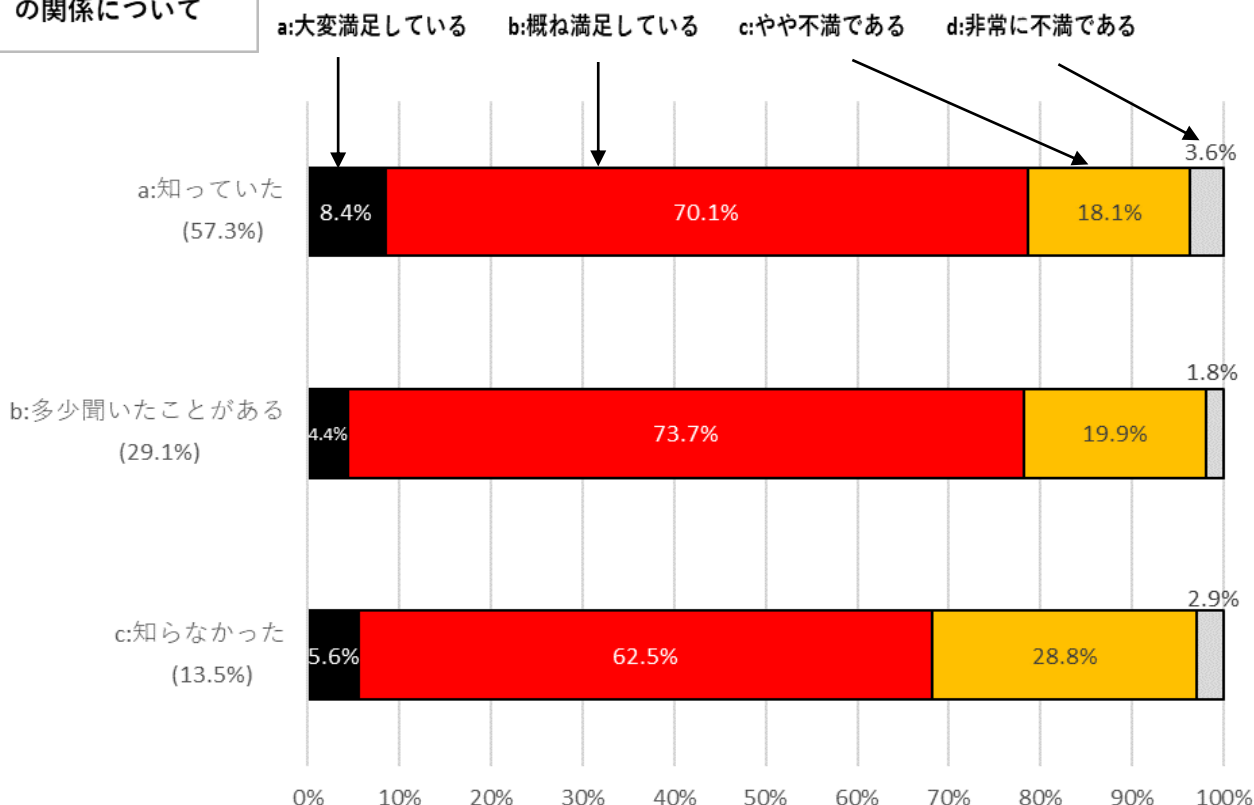
『リスクとリターンの関係』に関する設問で、リスクとリターンがトレードオフの関係であることについてご存知であると回答された方々ほど、『農業者年金の運用結果』に関する設問では、「大変満足している」「概ね満足している」と回答された割合が高くなりました。

一方、『リスクとリターンの関係』に関する設問で、「知らなかった」と回答された方々ほど、『農業者年金の運用結果』に関する設問では、「やや不満である」「非常に不満である」と回答された割合が高くなりました。

このことから、リスクとリターンの関係について一定の理解度がある方々は、農業者年金の運用結果に概ね満足されているという傾向が伺えました。

問1：農業者年金の運用結果について

問2： リスクとリターンの 関係について



(※)問2及び問1のいずれかが無回答であった回答12件については、全体の回答2,009件に対する割合が小さい(0.6%)ことから、上記データからは除外している。

問2×問3

『リスクとリターンの関係』に関する設問（問2）の各選択肢に回答された方が、『今後の農業者年金の運用』に関する設問（問3）について、どのように回答されたか。

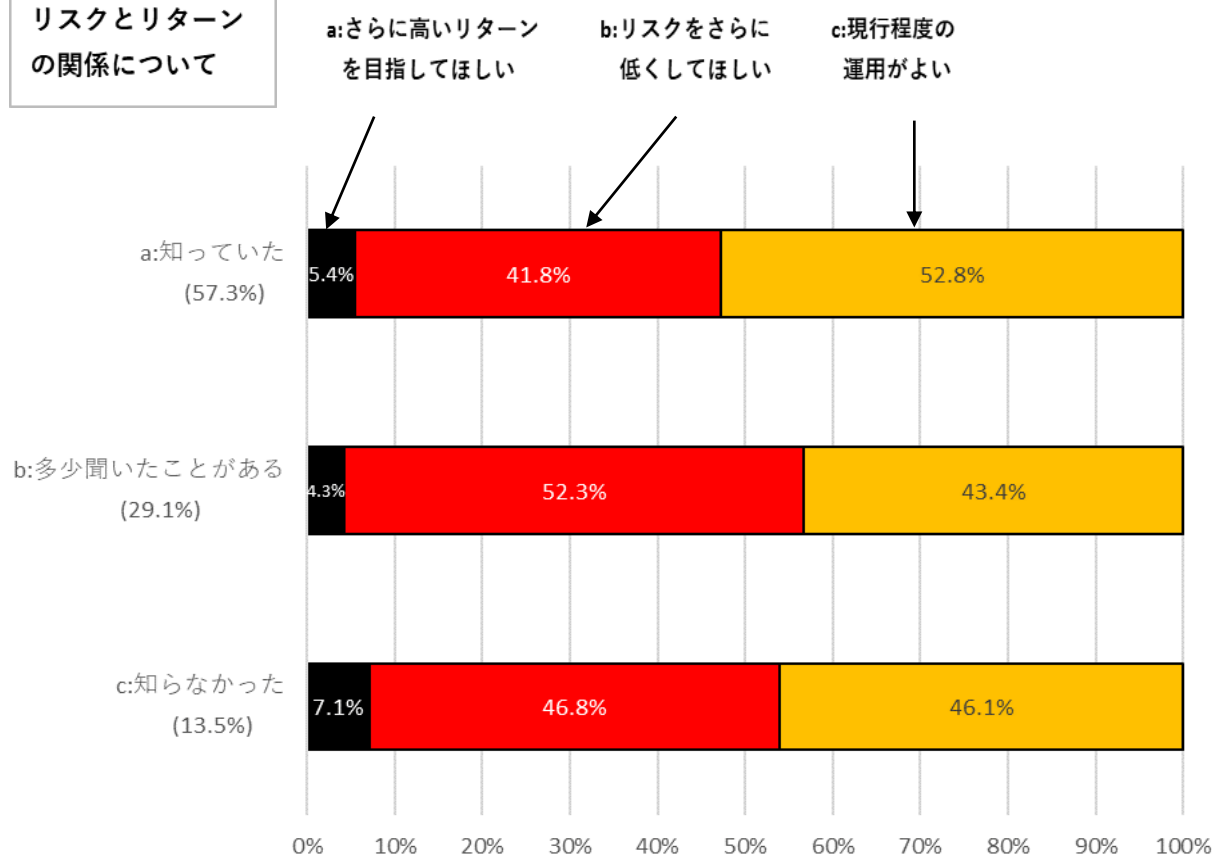
『リスクとリターンの関係』に関する設問に「知っていた」と回答された方々は、『今後の農業者年金の運用』に関する設問では、「現行程度の運用がよい」と回答された割合が半数以上と最も高くなりました。

『リスクとリターンの関係』に関する設問に「多少聞いたことがある」と回答された方々は、『今後の農業者年金の運用』に関する設問では、「リスクをさらに低くしてほしい」と回答された割合が半数以上と最も高くなりました。

『リスクとリターンの関係』に関する設問に「知らなかった」と回答された方々は、『今後の農業者年金の運用』に関する設問では、「リスクをさらに低くしてほしい」「現行程度の運用がよい」と回答された割合がそれぞれ46%程度となっています。

問3：今後の農業者年金の運用について

問2： リスクとリターンの 関係について



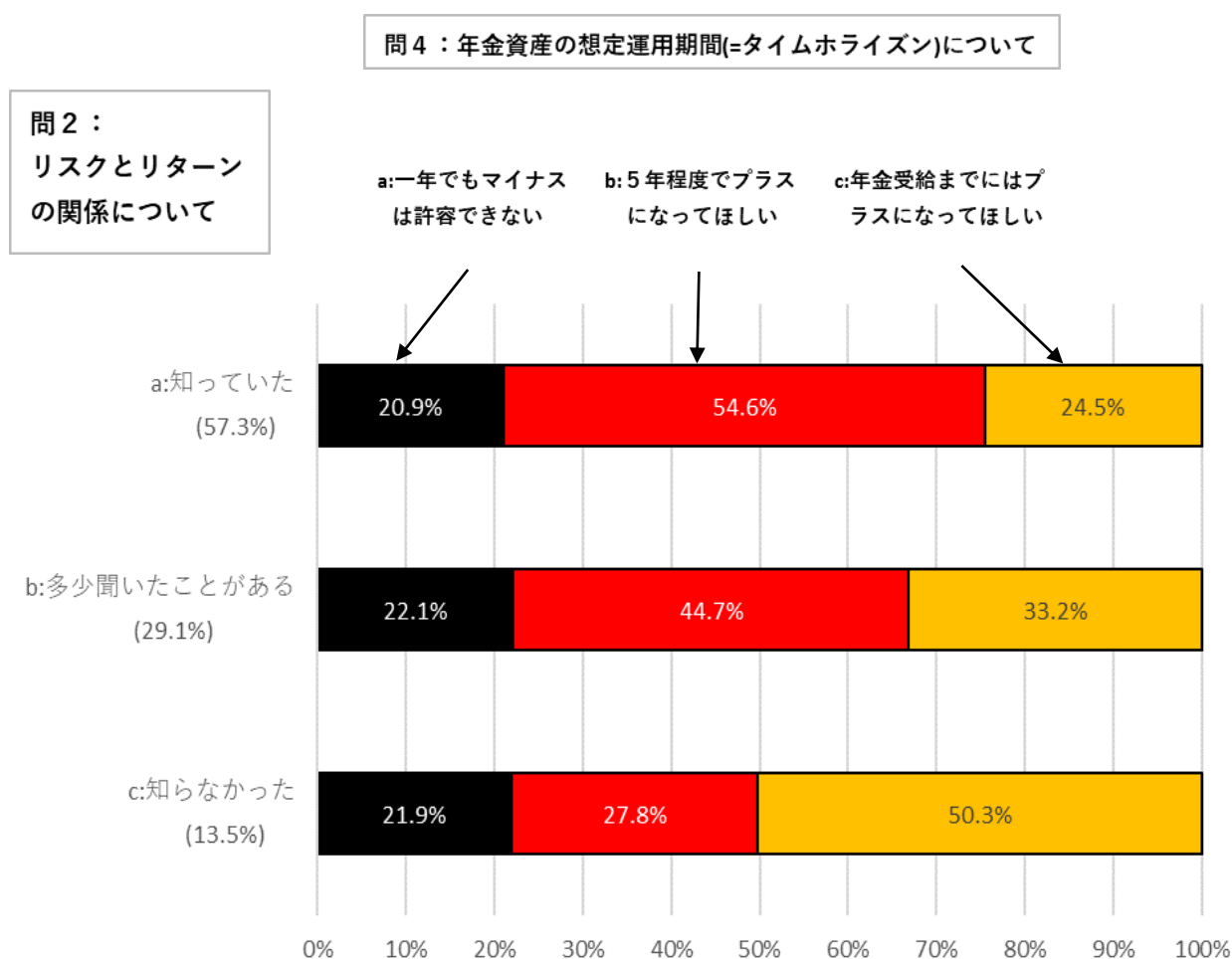
(※)問2及び問3のいずれかが無回答であった回答14件については、全体の回答2,009件に対する割合が小さい(0.6%)ことから、上記データからは除外している。

問2×問4

『リスクとリターンの関係』に関する設問（問2）の各選択肢に回答された方が、『年金資産の想定運用期間（＝タイムホライズン）』に関する設問（問4）について、どのように回答されたか。

『リスクとリターンの関係』に関する設問で、リスクとリターンがトレードオフの関係であることについてご存知の方々ほど、『年金資産の想定運用期間』に関する設問では、「5年程度で平均してプラス運用になってほしい」と回答された割合が高くなる傾向があり、逆に「年金を受給するまでにはプラス運用になってほしい」と回答された割合は低くなる傾向にありました。

また、「たとえ一年間でもマイナス運用は許容できない」と回答された割合は、リスクとリターンの関係についての理解度に関わらず、2割強の割合で概ね一定でした。



(※)問2及び問4のいずれかが無回答であった回答14件については、全体の回答2,009件に対する割合が小さい(0.7%)ことから、上記データからは除外している。

問6×問5

『参考資料の理解度』に関する設問（問6）の各選択肢に回答された方が、
『グローバル株式の導入』に関する設問（問5）について、どのように回答されたか。

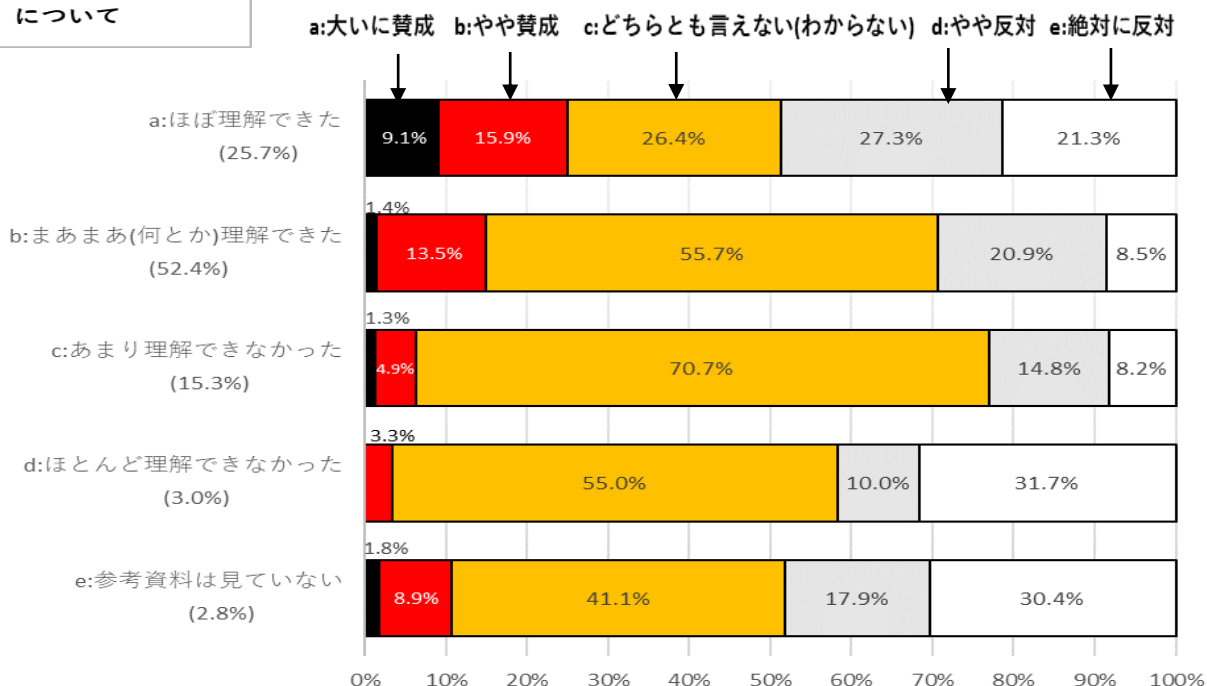
『参考資料の理解度』に関する設問で回答者の半数強の割合を占めた「まあまあ理解できた」と回答された方々は、『グローバル株式の導入』に関する設問では、「どちらとも言えない（わからない）」を選択された方々の割合が 55.7%と最も高くなり、次に、反対の意思表示をされた方々（「やや反対」「絶対に反対」）の割合が 29.4%と高く、賛成の意思表示をされた方々（「大いに賛成」「やや賛成」）の割合は 14.9%となりました。

『参考資料の理解度』に関する設問で回答者の 25%程度の割合を占めた「ほぼ理解できた」と回答された方々は、『グローバル株式の導入』に関する設問では、反対の意思表示をされた方々の割合が 48.6%と高く、「どちらとも言えない（わからない）」を選択された方々の割合が 26.4%、賛成の意思表示をされた方々の割合が 25.0%となりました。

『参考資料の理解度』に関する設問に「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」と回答された方々は、『グローバル株式の導入』に関する設問では、「どちらとも言えない（わからない）」を選択された方々の割合が半数以上と最も高くなり、また、参考資料への理解度が高かった方々と比べ、グローバル株式の導入に否定的な回答が増える（賛成の意思表示より反対の意思表示が多くなる）傾向が伺えました。

問5：グローバル株式の導入について

問6： 参考資料の理解度 について



(※)問5 及び 問6 のいずれかが無回答であった回答21件については、全体の回答2,009件に対する割合が小さい(1.0%)ことから、上記データからは除外している。

4 回答者の概況

概況：平成28年度アンケート回答者

(構成比は総数2,009人に対する比率、単位：人、%)

	男 性		女 性		合 計 (年代別)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	合 計	構成比
20歳代	66	3.3%	16	0.8%	82	4.1%
30歳代	331	16.5%	73	3.6%	404	20.1%
40歳代	432	21.5%	129	6.4%	561	27.9%
50歳代	753	37.5%	209	10.4%	962	47.9%
合 計 (男女別)	1,582	78.7%	427	21.3%	2,009	100.0%

(参考1) 農業者年金加入者(20-50代)総数：約4.6万人

(構成比は総数46,439人に対する比率、単位：人、%)

	男 性		女 性		合 計 (年代別)	
	加入者数	構成比	加入者数	構成比	合 計	構成比
20歳代	2,274	4.9%	277	0.6%	2,551	5.5%
30歳代	9,460	20.4%	2,243	4.8%	11,703	25.2%
40歳代	10,894	23.5%	3,196	6.9%	14,090	30.3%
50歳代	14,519	31.3%	3,576	7.7%	18,095	39.0%
合 計 (男女別)	37,147	80.0%	9,292	20.0%	46,439	100.0%

(注) 平成28年8月末日時点

(参考2) 平成28年度アンケート送付者 総数1万人(無作為抽出)

(構成比は総数10,000人に対する比率、単位：人、%)

	男 性		女 性		合 計 (年代別)	
	送付者数	構成比	送付者数	構成比	合 計	構成比
20歳代	419	4.2%	61	0.6%	480	4.8%
30歳代	1,999	20.0%	434	4.3%	2,433	24.3%
40歳代	2,331	23.3%	692	6.9%	3,023	30.2%
50歳代	3,238	32.4%	826	8.3%	4,064	40.6%
合 計 (男 女 別)	7,987	79.9%	2,013	20.1%	10,000	100.0%

(参考3) 平成28年度アンケート各送付者数に対する、年代別・男女別の各回答割合

(構成比は総数2,009人に対する比率、単位：人、%)

	男 性		女 性		合 計 (年代別)	
	回答者数	回答割合	回答者数	回答割合	合 計	回答割合
20歳代	66	15.8%	16	26.2%	82	17.1%
30歳代	331	16.6%	73	16.8%	404	16.6%
40歳代	432	18.5%	129	18.6%	561	18.6%
50歳代	753	23.3%	209	25.3%	962	23.7%
合 計 (男 女 別)	1,582	19.8%	427	21.2%	2,009	20.1%